



■今年世界で警戒している「新型インフルエンザ」ですが、「新型」とはどういう事なのでしょう？

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによっておこる病気です。ヒトだけでなく、他の動物もインフルエンザウイルスに感染します。通常、インフルエンザウイルスは、例えばヒトからヒトへといった同種の間で感染するものです。しかし、インフルエンザウイルスの性質が変わる（変異する）ことによって、これまでに、ヒトに感染しなかったインフルエンザウイルスが、ヒトへ感染するようになり、そしてさらにはヒトからヒトへ感染するようになります。この変異したインフルエンザウイルスのことを新型インフルエンザウイルスといい、そのウイルスによって起こるインフルエンザを新型インフルエンザといいます。新型インフルエンザとして、大正7年（1918年）に「スペインかぜ（スペインインフルエンザ）」、昭和32年（1957年）に「アジアかぜ」、昭和43年（1968年）に「香港かぜ（H3N2）」、昭和52年（1977年）に「ソ連かぜ（H1N1）」が（かぜという名前がついていますが、インフルエンザです。）流行しています。これらはいずれも世界的に流行し、多くの死亡者を出しました。「スペインインフルエンザ」において、世界では約4,000万人、わが国では約39万人が死亡したと記録されています。新型インフルエンザは、10年から40年の周期で流行するといわれています。しかし、新型インフルエンザウイルスがいつ出現するのか、予測することはできません。今回の新型インフルエンザはその遺伝子が豚インフルエンザのものに似ていることから、確認当初は豚インフルエンザと呼ばれていました。その後の研究で今回のインフルエンザウイルスが豚インフルエンザウイルスの遺伝子のほかに、鳥インフルエンザウイルス及びヒトインフルエンザウイルスの遺伝子も持つことが確認されています。7/24現在、今回の新型インフルエンザの確定者数は日本で5022人となっており、死亡者は幸い0人です。（参照文献：厚生労働省新型インフルエンザ関連情報）

～病院からのお知らせ～

- 当院では新型インフルエンザの診察を行っております。発熱や呼吸器症状で受診を希望される方は診察前に受付窓口にご相談下さい。
- 保険証の確認にご協力をお願い致します。
- 当院へのご意見は院内の「ご意見箱」をご利用ください。

編集後記

○毎日、暑い日が続きますね。冷房のかけすぎで体調を崩さないようにしてください。分かっていても、つつい冷房の温度を下げてしまい毎年体調を崩すのは私自身です。今年こそは気をつけようと思います。（O）  
○夏です～。ある本に世界有数の有名ホテルである「リッツカールトン」の話題が有り、企業理念が「社会に対して価値を作り出す」そして「価値観の転換」を説いています。素晴らしい。私自身も価値を高めよう。だが庶民は安値安定も魅力だが、まずは考え方を改めよう。（T）  
○今年は局地的な豪雨が問題となっています。地震もありました。防災の意味を考えさせられます。「備えあれば憂いなし」「明日はわが身」しっかり対応しておきましょう。（匿名編集員）

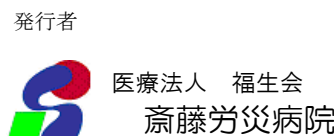
院内意見箱設置箇所

- A病棟・・・1階エレベーターホール付近
- A病棟・・・3階エレベーターホール付近
- C病棟・・・2階B棟連絡通路付近
- E病棟・・・1階エレベーターホール付近
- 健康管理センター棟・・・2階トイレ付近

皆様のご意見を！



千葉市中央区道場南1-12-7  
代表電話 043-227-7437



ホームページもご覧下さい  
<http://www.saito-rosai.or.jp>

編集：総務部（冬季・夏季 年2回発行）

# まごころ

日本医療機能評価機構認定病院  
人間ドック・健診施設機能評価認定病院  
労働衛生サービス機能評価機構認定病院  
労災二次健康診断等給付指定医療機関

## 医療法人としての責任 ～当法人の近況～

理事長 斎藤 順之

梅雨も明け、夏本番となり暑い日が続いておりますが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。暑さに負けずどうぞご自愛下さい。

さて、医療・介護の現場を見ますと、毎年制度が変更されている中、制度変更に関われない強固な基盤づくりの必要性を感じています。法人としての基盤を強くすることにより地域医療に安定した医療サービスを供給し続ける事ができるものと考えております。医療には「安全」「安定」が最大の使命であると感じております。今後とも当法人では高齢社会における役割、市内救急医療体制充実に向けた協力体制づくりに邁進する所存です。

この5月に病院を持つ医療法人では県内初となる住宅型有料老人ホームあんしんかんを開設させることが出来ました。開設に際しては、千葉県、千葉市のご指導を受け、これからの地域医療に新たなモデルケースを作るべくチャレンジさせていただきました。

行政各機関のご理解をいただき、予定通り開設出来た事は、法人にとってたいへん嬉しい事でありましたし、微力ながらこの地で古くから医療に携わらせていただいた医療機関として信頼を更に強固にしなければならないと、決意を新たにしました次第です。

これからの医療機関は役割を明確にしていく姿勢が求められています。急性期医療を専門にしていけるのか、慢性期医療に特化していけるのか、選択しなければ病院としての機能を評価してもらえないような時代になりました。

しかし私ども法人は1つのものに特化するのではなく、急性期医療・慢性期医療・健康管理・高齢者の介護に至るまで、地域の方々に貢献したいと考えております。

また、必要があれば他機関との連携をうまく活用していきます。その為には普段から関係医療機関との「良好なコミュニケーション」（信頼関係）を持つことが大切と考えています。

医療における「信頼関係」は基本であり、「安全」と「安定」を確かなものにします。

様々なネットワークの中でしっかり対話の出来る医療法人である事、これが当法人の責任であります。

微力ながら地域医療の一助になるよう努力する所存であります。これからもどうぞよろしくご意見申し上げます。

目次：

- 理事長よりご挨拶 1
- 有料老人ホームあんしんかん開設 2
- 人間ドック機能評価認定 3
- リハビリテーションの充実 3
- 部署紹介 ～高血圧酸素治療科～ 3
- シリーズ診療Q&A 4



5月1日にOPENした「あんしんかん」



通所リハビリテーションも開設



# 有料老人ホームあんしんかんを開設

病院を運営する医療法人では千葉県で初めてとなる住宅型有料老人ホーム（54室）の運営を5月から開始しました。施設名称は「あんしんかん」。入居された方々とご家族に「安心」と「安らぎ」が満ち溢れるようにとの思いを込めた施設名称です。



5月にOPENした「あんしんかん」

「笑顔とやさしさの分かち合い」が施設方針であるこの施設を紹介させていただきます。

## 1階にはデイケアを併設したクリニックを開設

クリニック名称は「あんしんかんクリニック」。在宅療養支援診療所の届出もっており、「あんしんかん」にお住まいの皆様の健康管理も担当しています。

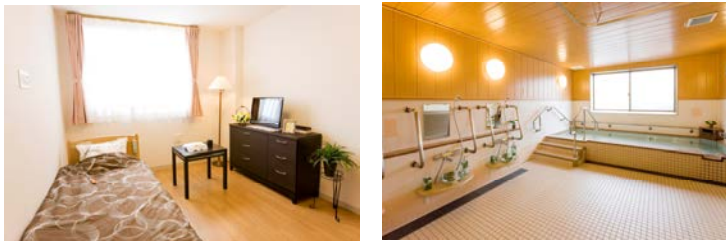
また、クリニックにはデイケアを併設し、理学療法士による機能回復訓練や、入浴、レクリエーション等、多彩なプログラムを準備しています。送迎車で通っていただく方々の他、あんしんかんにご入居されている方もご利用いただいています。



館内は明るくデザインされています

## 訪問看護・訪問介護による充実したケア体制

あんしんかんは病院が運営する高齢者住宅ということもあり、医療度・介護度が高い方でもお住まいいただけます。医師の訪問は勿論、看護・介護も当法人が運営する訪問看護ステーションと訪問介護ステーションがお手伝いいたします。



ナースコール対応の居室

デイケアの大浴場

オープン前からたいへん多くのお問い合わせをいただいております。7月30日現在のご入居者は38名。デイケアのご希望者も多く、「あんしんかん」のコンセプトが高齢社会にとって、とても必要となってきたと感じています。

ご入居・デイケアのご相談はお気軽にどうぞ。

斎藤労災病院 あんしんかん  ホームページもご覧下さい

## あんしんかんで演奏会が開催されました

あんしんかんご入居中の方々、斎藤労災病院にご入院中の患者さん、地域の皆様に向けて、サクソフองグループによる演奏会が開催されました。

（7月11日<土>「チャルメラ集団」）たくさんの方にお集まりいただき迫力のある音量に大いに盛り上がりアンコールも飛び出しました。今後も楽しい催しをたくさん行っていく予定です。乞うご期待。



迫力のサクソフオン四重奏♪

## 人間ドック・健診施設機能評価の継続認定

当院では、平成16年度に日本病院会で始まった人間ドック・健診施設機能評価をいち早く受審すべく、準備を行い、全国で8番目の施設認定をいただきました。初回認定から早くも5年、今年には更新審査が行われました。書類審査、訪問審査を経て、この4月に再認定をいただくことができました。

評価方法は、書面調査と訪問調査によって行われます。評価領域は①基本的事項と組織体制 ②受診者の満足と安心 ③人間ドック健診の質の確保 ④運営の合理性で、評価項目は184項目にもなります。



皆様すでにお馴染みのメタボリックシンドロームや特定健診についての情報が溢れています。ご自分の健康状態を正確に知り、健康づくりに役立てる。ヘルスチェック（健康診断）の役割が非常に重要になってきています。健康づくりは正確な健康診断から。再認定に気を緩めることなく、精度管理、医療安全、法令遵守を継続し、これからも質の高い健診がいつでもご提供できるよう、努力して参ります。

人間ドック・健康診断のお問い合わせは健康管理センターへ。



## リハビリテーション科のスタッフが充実しました

今年の4月より当院のリハビリテーション科に作業療法士と言語聴覚士がそれぞれ1名入職しました。これによりご提供できるリハビリテーションサービスの幅が大きく広がることとなりました。これまで理学療法士のみでの体制では行うことが難しかった、退院後を想定した家事訓練や職業復帰を想定した訓練などは、作業療法士が加わった事により実施が可能となり、同じくこれまでは行えなかった脳卒中等によっておこる失語症に対する言語療法や食事の飲み込みが悪くなった方への摂食機能訓練も、言語聴覚士が加わった事により行えるようになりました。今後もより良いリハビリテーションサービスを皆様に提供できるようスタッフ一丸となって頑張ります。ご不明な点がございましたら、リハビリテーション科スタッフにお気軽にお尋ね下さい。どうぞよろしくお願いたします。



各種訓練が充実します

## 部署紹介 ～高気圧酸素治療のパイオニアとして～ 高気圧酸素治療科

高気圧療法は日本では大正時代より減圧症に対する再圧療法として行われて来ましたが、1958年、当院の故斎藤春雄が脳卒中後遺症に対する高気圧療法の有効性をいち早く報告し、また欧米での高気圧療法の発達もあり、その後各大学病院等でさかんに研究が行われるようになりました。現在では高気圧酸素治療としていろいろな疾患に対して改善効果をあげています。

そんな歴史ある当院の高気圧酸素治療科では、保険適用の疾患（腸閉塞、突発性難聴、脳梗塞など救急的適応15疾患、脳血管障害、骨髄炎など非救急的適応9疾患）はもちろんの事、プロスポーツ選手も多数訪れ、故障の早期回復に効果をあげています。多くの人に気持ちよく安全に利用してもらえる様に努力して参りますのでよろしくお願いたします。



高気圧酸素治療のタンク（写真左）9人用の第二種装置